会議議事録

|  |  |
| --- | --- |
| 事業名 | 令和3年度「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」  （２）教職員の資質能力向上の推進①効果的な教育成果①効果的な教育成果の公開方法等に関する支援体制づくりの推進 |
| 代表校 | 一般社団法人全国専門学校教育研究会 |

|  |  |
| --- | --- |
| 会議名 | 第4回体制整備事業運営委員会 |
| 開催日時 | 令和4年2月16日（水）　13時00分～15時00分 |
| 場所 | 福岡　リファレンス駅東会議室（オンライン開催併用） |
| 出席者 | 事業責任者：高岡 信吾  委　　　員：成底　敏、岡村　慎一、松田　義弘、  （オンライン参加）  柳田 祐大、泉田　優、小田　政江、氏部　正、山根　大助、  富久　重信、猪俣　昇、藤井　達也　　　　　　　計12名  請負業者：八木 信幸、飯塚　正成 　　　　　　　　　　　　　計 2名  　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　合計14名 |
| 議題等 | 1. A類〜D類のコンテンツ作成、ならびに実証検証   【分類ごとの概要】  ■A類（成底）  ・オンデマンド教材①専修学校に関する基礎知識（1）～（3）はすでに菊田氏による収録が終わった。④各種申請書作成に必要な法令は台本・音入れ終了。⑤学校運営責任者の為の学校法人会計の知識も音入れが終了し、全て現在編集作業中となっている。  ・今後、このオンデマンド教材をどのように公開するか検討が必要。  ■B類(成底)  ・オンラインセミナーを1月18日に実施した。参加者数は82名、アンケート実施済み。  ・事業計画のアンケート調査を2月14日から全専研加盟校を対象に実施中。2月22日締め切りとする。  ■C類（泉田）  ・1月26日・27日にオンラインセミナーを実施した。参加者15名、アンケート実施済み。  ・研修について資料に基づき、下記について説明。（八木）   1. 進め方 2. グループワークについて 3. パネルディスカッションの進め方について   ・アンケート集計について資料に基づき説明。（八木）  ■D類（成底）  ・e-ラーニング教材を福岡大学の植上先生に作成依頼中。コンテンツは1本15分程度で4本、合計60分を予定している。作成物は2月第3週に受け渡し予定。その後、編集作業に入る。  ・A類同様公開、配信方法を検討する必要がある。  ・事業計画の調査が未実施のため、要検討。  【意見等】  ・A類・D類のコンテンツ配信方法はYouTubeもしくはHPからの配信、2通りの方法がある。いずれも全専研事務局から事業報告として案内。活用については次年度。その際、受講者を管理するかどうかによって、費用面や管理方法が変わってくる。（飯塚）  →e-ラーニングシステムを使用すると、誰が何を見たかという管理は可能。専用のサーバーを使用しさらなる管理をすると一人当たり2～300円のアカウント量、サーバー容量が2～5ギガ程度ならほとんど費用は掛からないと思われる。（猪俣）  →現在の進捗では公開は来月となる。視聴期間を設けても結果は3月末となるので、今年度の報告には間に合わない。（成底）  →スケジュール的に考えると今年度は視聴のみ、管理は来年度からということになる。学習効果なども管理するには、アンケートなども必要となる。また1本15分～20分程度。法律や制度的な内容なのでしっかり学ぶ必要がある。また、全専研のファイルサーバーの容量を確認中で、コンテンツをHPに掲載できるかが不明。今後明確になった時点で委員長決済をしていただきたい。（飯塚）  ・C類研修についてファシリテーターとしての感想はどうか。（成底）  →八木先生にスムーズに進めていただいてので、アンケート結果を見ても、当校からの参加者の意見を聞いても、対面と同様の成果があったのではないかと考えている。（泉田）  →ファシリテーターとして参加した。当初は不安もあったが参加されている先生方の協力もあり、スムーズに進んだ。参加された先生方の日頃の問題点などを紹介しあう時間があるとさらに良かったのではないかと感じた。（柳田）  →参加されている先生方の学ぼうという姿勢が強く、タイムマネジメントが重要だったが、有意義な研修になったと感じる。（小田）  →対面と変わらずオンラインでも問題がなかったと感じている。（松田）  →26日に30分ほど参加した。参加した教員とも話したが満足度が高かった。もう少し発表の時間を長く、各校の取り組みについて深く聞けると良いとの話があった。（富久）  ・発表の後すぐブレイクアウトルームに入ったので、違う受け取り方をしている方もいたので気になった。対面だったらその内容が耳に入ってきて修正することができるが…。（高岡）  →そのような話がパネルディスカッションに反映されて修正できれば良い。今後の課題としたい。次年度検証できたら対面実施し、オンラインとの違いなどを成果としたい。（八木）  →手元に制作物があったらさらに満足度が上がったのではないかと感じるが、成果としては十分だったと考える。アンケートでも自校に取り組みに取り込んでいきたいとの意見が多くあるので、研修の目的は伝わったと感じている。（成底）  ・A類・D類についてはコンテンツ作成、B類・C類については調査報告、研修実施、アンケート集計を事業報告とする。（成底）  →同意。C研修の当日配布資料については報告書に入れずに、ダウンロード形式にしたらどうか。B類研修の白井校長の2部については、報告には未掲載とする。（飯塚）  →了解。（八木）  2. 成果報告会の開催・運営  ・本日の委員会を受けて作成する。（作成担当：成底）  3. 次年度検討  ・事業計画書での予定は下記6項目。  ①eラーニングマネジメントシステム作成（１システム）  　②知識分野学習コンテンツ開発（６本）   1. マネジメントセミナー（東京・福岡） 2. マーケティングセミナー（東京・福岡） 3. 帳票作成の効率化支援調査（対象：職業実践専門課程） 4. 業務効率化に関するセミナー（東京・福岡）   【意見等】  ・情報公開の普及促進のための人材育成という狙いは外したくない。恒常的に続けられるコンテンツ提供を最終年度のゴール設定としたい。ただ基礎的な部分の足固めをして進めていくために、文科省委託事業だけではなく、全専研で仕組みを作るなどの必要があると感じている。（岡村）  →A類の菊田氏のコンテンツでは、現状までの流れを改めて勉強できる内容となっており、ぜひ経営層に見てほしい内容。またA類の④⑤、D類のシラバスについては実務を担当している方にぜひ受講してほしい内容となっている。今年度のこれらのコンテンツや研修を次年度どのように絡めてブラッシュアップするか検討する必要がある。次年度の計画項目②がA類、③がB類、④がC類に当てはまる。（成底）  →①は受講者が何を学習し何を習得したかまで管理するとしたら①に当てはまる。（飯塚）  →全専研が質向上のために研修を実施しているというだけではなく、終了証を発行するなどエビデンスを提供できるような仕組みにしたい。そこを到達点として目指しても良い。②については今後シリーズが必要、③は分野別のフォローアップに対する研鑽が必要、⑤重複している帳票のピックアップ、できれば各地域を単位に実施したい。（岡村）  →A～D類の研修の体系付けの検討が必要。セミナーとして独立させたほうが良いものもあるかと思う。オンデマンド教材に関してはアンケート実施など学習効果を図る仕組みを作りSDに役立つ教育体制が必要なのではないかと考えている。⑤⑥については研修ではなく、データベースから帳票が作成できるアプリなどが作成できるといいのではないかと考えている。（飯塚）  →⑤⑥については、チームを作りアプリ開発を進めていくことを検討する。（成底）  →④については情報公開の基礎知識を追加した内容が欲しい。（高岡）  →A類に追加し、実践としてセミナーを受講という形が良いのでは。（ 飯塚）  →効果的な情報公開にするために、セグメント分け、メディアの選択、アプローチ手法を提案できると良いと考えている。文科省事業としてやってきたが、そろそろ明確な実効性を示していきたい。（岡村）  →SDを考慮すると、A類とD類のコンテンツを受講後、理解度を図り修了証を発行、その上でB類、C類のセミナー受講を促す一連の流れで体系づけると効果が出るかと考えている。（成底）  ・①～④についてはA～D類の研修を進める形で良いと考えている。⑥については次年度検討していく必要がある。⑤については、一昨年の各帳票の調査結果をもとに必要な内容を決定していく必要があると考えている。また文科省に限らず様々な省庁に書類を提出しているので、省力化がすすめられると良い。来年度は委員の継続は難しいが、代わりについては打診してほしい。（氏部）  ・この事業に参加することで勉強をさせていただいた。A類でのコンテンツ作成では次年度も引き続き担当していきたいと考えている。（小田）  ・次年度の事業計画については、成底先生のおっしゃる通り体系付けしていくことに同意。帳票については氏部先生がおっしゃる通り省力化を進めていければと考えている。（山根）  ・①については、修了証発行までのシステムがあるので、次年度開発することになった際には力になれるかと思う。（猪俣）  ・次年度に向けては、今年度で作成したものを進化させてさらに多くの学校関係者に方に伝えられる機会が継続的にあると良いと考えている。当学園も年々スタッフが増え方針などを伝えるのに時間がかかるようになってきている。そういった意味でも短期間で伝えられる研修などは有効であると感じる。（富久）  ・こちらでの活動を自校内で活用させていただいた。次年度も可能であれば協力していきたい。（柳田）  ・途中からの参加だったが、A～D類の取り組みについては非常に重要なものだと考えている。（藤井）  ・この事業に参加することでいろいろな業界のスタンダードを身につけさせていただいた。C類の研修のブラッシュアップにまた携われたらと考えている。（泉田）  ・次年度についても引き続き参加させていただきたいと考えている。（松田・八木）  ・来年最終年度なるので、引き続き参加いただける方よろしくお願いしたい。（高岡）  ・来年は最終年度なので、記憶に残るような成果を出していきたい。（岡村）  ・コロナ禍で直前での計画変更などもあったが、皆さんのおかげで成果が出せた。来年度も協力をお願いしたい。（成底） |
| 配布資料 | ・220216 委員会資料  ・C類研修会\_オンライン研修資料\_20220126  ・研修受講後アンケート調査結果\_20220127 |

以上